

# 来週の『売り物』記事はこれ



2015年6月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 初稿発表から激動の半世紀

### 苦海浄土 石牟礼道子の今

14日(日)



水俣病の悲惨を描いた石牟礼道子さん(88)＝写真＝の「苦海(くがい)浄土」の初稿が発表されてから今年で50年になります。当初は「公害告発のノンフィクション」と見なされていましたが、東日本大震災などを経た現在では、効率至上主義の近代社会を問い直す世界文学としての評価が高まっています。昨年は「苦海浄土」の一章として収録されるはずが、埋もれていた原稿の存在も明らかになりました。新聞各紙が大々的に報道し、文学作品としては異例の扱いの大きさが、石牟礼文学への関心の高さを改めて示しました。羅針盤を失い、漂流しているかのように見える時代に石牟礼さんは何を思うのか。文学・思想的同志の渡辺京二さん(84)との二人三脚の日々に密着しました。

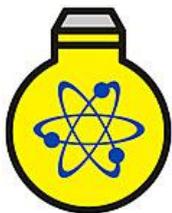


日曜朝は『S』で始まるー。ストーリーにご期待下さい。

## 原発推進を鮮明にした将来の電源構成の政府案

最後まで反対した専門家が指摘する「政府のごまかし」とは

夕刊2面特集ワイド 16日(火)



原子力20～22%、再生可能エネルギー22～24%……。2030年度の総発電量に占める電源ごとの割合(電源構成)を示す政府案が先日、経済産業省の有識者会議で了承されました。しかし、原発でこれだけ発電するには、老朽原発も動かし続けることが必要となるため、「安全神話への逆戻り」との批判が出ています。なぜ、こんなことになってしまったのでしょうか。会議で最後まで政府案に反対し、「政府のごまかしだらけ」と批判する東京理科大学教授の橘川武郎さんに会議の舞台裏を聞きました。

## 戦後邦画の出発点

朝刊文化面 13日(土)

長部日出雄さんのエッセー「映画と私の昭和」は1947年の映画「安城家の舞踏会」(吉村公三郎監督)を取り上げます。戦後没落した華族の物語を斬新な演出と演技で見事に描き切った秀作で、主演の原節子さんはこの映画をきっかけにトップ女優へと登りつめていきます。戦後の邦画全盛時代の出発点といえる映画の魅力と背景を読み解きます。



## 日韓国交正常化 50 年

### 「嫌韓」「反日」のはざままで未来を考える

19 日（金） オピニオン面 <論点>



日本と韓国は 6 月 22 日、日韓基本条約による国交回復から半世紀を迎えます。50 周年という大きな節目の年だということに、祝祭ムードはありません。それどころか、両国の関係は「戦後最悪」といわれるほど冷え込んでいます。日韓首脳会談は安倍晋三首相と朴槿恵大統領の就任以降、一度も開かれていません。日本と韓国——。一衣帯水であるはずなのに、両国間には「歴史認識問題」というくさびが深々と突き刺さっています。それに竹島の領有問題が重なり、国家と国家のメンツが激しくぶつかり合っているようにも見えます。果たして

改善の道筋はあるのでしょうか。日韓の 3 人の賢者に話を聞きました。

「知りたい」が分かる。

オピニオン面にご注目ください。

### 「西原理恵子のおかん飯」

おんなのしんぶん 

14 日（日）

料理家の枝元なほみさんとの「大好きさんへ編」。今回の料理は「麦とろご飯」です。6 月 16 日は「麦とろの日」という枝元さん。暑くなるこの時期にぴったりの「パワーフード」で、西原さんも好きな食べ物の一つ。普段から盛り上げる二人の会話は、さらにヒートアップ。食べ方のこだわりを熱く語り合っています。毎回、ウェブサイトにはアップしている動画と写真特集も必見です！



### 簡単「ニンニクみそ床」

くらしナビ面 16 日（火）



店頭で新ニンニクが並ぶこの季節。漬けるだけで食材がおいしくなる「ニンニクみそ床」を仕込んでみませんか。「ぬか床のように手をかける必要もなく、一度仕込めば一生もの」と話すのは、30 年ほど前から冷蔵庫に常備し、日々の料理に役立てている料理研究家の松田美智子さん。さまざまな素材を使って、漬け込み、さらにみそ床を育てていく楽しさを教えていただきました。

### 農業女子、存在感を発揮中

くらしナビ面 18 日（木）

男性や高齢者が中心に担っているイメージのある農業の世界で、女性農業者を活躍させるプロジェクト「農業女子」が存在感を発揮し始めています。メンバーの女性は全国に約 300 人おり、その 9 割が 40 代までの若手。お中元商品、車、化粧品、作業着など幅広い分野で企業と連携し、商品開発・企画に協力しています。女性の存在は、農家の将来にも影響を与えそうです。



### 信託で老後の資金管理

くらしナビ面 19 日（金）



「自分の死に際して、面倒な手続きなしに家族に円滑に葬儀費用や生活資金を引き継ぎたい」「認知症になって判断能力が衰えた場合に備え、どんな準備ができるのか」——。高齢者のこんな思いに応える信託銀行の「遺言代用信託」の利用が伸びています。実際に資産管理で困った事例を挙げながら、老後のニーズに対応できるような活用ケースを紹介します。